

論理的思考力&発想力入試 言語分野

受験番号

氏名

【注意】

- 一、問題冊子が配られても、開いてはいけません。
- 二、問題冊子は1ページから4ページまであります。
- 三、「はじめなさい」と言われたら、まず、問題冊子の表紙と解答用紙二枚と下書き用紙に、それぞれ受験番号と氏名を書きなさい。
- 四、答えは、すべて解答用紙に書きなさい。
- 五、問題冊子に書きこみをしてはかまいません。
- 六、「やめなさい」と言われたら、すぐに筆記用具をおき、解答用紙も問題冊子も表を上にして、机の上におきなさい。
- 七、試験時間は五十分です。

次の文章を読んで、後の問題に答えなさい。なお、

資料1、

資料2は必要に応じて目を通してください。

A

コンピュータと人間は何が違うのか、考えてみたことはありますか？

コンピュータとは、日本語では「電子計算機」という意味で、とにかく計算が得意です。しかも、とてつもなく速く計算ができます。

どのくらい速いかというと、1秒間に数百万回も足し算ができます。これでは、人間はコンピュータにはかないません。

皆さんが遊ぶゲーム機も、大人が仕事で使うパソコンも、スマホやタブレットも、家にある家電も、どんなコンピュータも、全部計算をしているのです。ゲームの動きが「計算」だなんて、信じられないかもしれませんね。コンピュータは、やはりすごいのです。

では、人間は絶対にコンピュータにかなわない、ということなのでしょう。いいえ、そんなことはありません。

数え切れないほどたくさんの計算の組み合わせを、人間にはとても不可能な速さで簡単に解いてみせるコンピュータですが、その計算の仕方をコンピュータに教えているのは、わたしたち、人間です。

そう、皆さんをあっと言わせる素晴らしい「アイデア」を思い付いたり、いろいろなものを組み合わせせて新しいものを作る「才能」だったり、こうしたことはこの世界で人間にしかできません。こればかりはコンピュータでも降参です。

(中略)

そんな人間が、長年知恵を絞って、コンピュータを使った、あることを実現しようと、努力を続けています。それは、人間のように考えたり振る舞ったりすることのできるコンピュータ、「人工知能」と呼ばれるものなのです。

「人工知能」というものは、「人間が(コンピュータを使って)作り出した知能」ということです。「知能」というものは、簡単に言うといろいろなことを筋道立てて考えたり、言葉を話したり、自ら学んだりすることと言えるかもしれません。

つまり、わたしたち人間が普段やっている、そして人間にしかできないと思われている、そんな能力のことです。やはり、人間もすごい存在だと思いませんか？

ところで、よく考えてみると「計算」という

ことは、ものすごく脳みそを使わないとできないこと
とですし、他の生物にはとてもできないことな
す。では、計算も「知能」なのでしょうか？ そ
して、計算がとてつもなく速くできるコンピューター
も「知能」があると言って良いのでしょうか。

何だか、とても難しい話に思えるかもしれません。
でもその通り、本当に難しい話なのです。世界中
の偉い研究者や学者さんたちが「そもそも知能って
何だろう？」という問題について、長年考え続け、
いまだに「これだ！」という答えが見つかっていま
せん。こんな難しい問題と格闘し続けているという
ことが、そもそも人間が「知能」を持っている証しょうこ拠
なのかもしれません。

ともあれ、わたしたち人間は、大昔から「考える
って何だろう？」「知能って何だろう？」という、
とてつもなく難しい問題に取り組み続けています。

そして、人間は何でも計算できる機械、「コンピ
ューター」を作り出すことに成功しました。人間に
しかできなかったとても難しい「計算」という作業
を、人間が命令した通りにあつという間にやっての
ける機械の登場です。

そんなコンピューターを使って、もっと人間にし
かできないこと、つまり「知能」を持たせることが

できないか、これが「人工知能」なのです。

「人工知能」という言葉は、あまり聞いたことが
ないかもしれませんがね。けれども、「ロボット」な
ら、もちろん知っているでしょう。

(中略)

ただ、ロボットや人工知能は、それほど遠い遠い
将来の夢物語というわけではありません。実は、皆
さんの身の回りにも人工知能が使われているものが、
既に結構あるのです。

人工知能を英語で書くと「ア「イ「エ「オ「カ「キ「ク「ケ「コ」
「コン「ピュー」
「コンピューター」
「インテリジェンス」
と略して「AI」(エーアイ)
と言います。そんな立派なものが身近にあるなんて、
少し信じられないかもしれません。

確かに、人間のような形をして、人間と普通に話
をしたり、人間を手伝ってくれたりするロボットは
まだ存在していません。しかし、人間にしかできな
いはずだと思われていた「賢い作業」や、「まるで
人間が考えてやっているような動き」を、少しずつ
ではありますが、コンピューターもできるようにな
っているのです。

(松林弘治『はじめてのAI(エーアイ)』汐文社)

ここで資料1、資料2に目を通してください。

B

小説を読む時、人は誰しもその文章から書き手の心の動きを思い描く瞬間があります。「このエピソードはつくりものだけれど、作家の記憶の中のトラウマが反映されているのかもしれない」「何か本当に恐ろしい出来事があったに違いない」と作家の心の動きを敏感に感じ取ることで、読者は物語を自らの心の中に、いわば写し取ることができる。小説を読む、ということはある意味では、作家と読者が心の働きを使って互いの表象を交換すること、と考えられるのかもしれない。

では、先ほどの『コンピュータが小説を書く日』を読んで、そこに作者自身の心の動きは感じられたでしょうか？ もちろん「Aーが書いた」ということが分かっていきますから「感じられる」と認めにくいかもしれませんが。

もしも感じられたとしたら、このAー作家には心が宿っている、と考えられないでしょうか？ 少なくとも「心が宿っていない」とは断言できなくなるに違いないことは予測できると思います。

先述したように私は、心というものは、人間が「そこに心の存在を仮定した方が、心地よい」と感じるかどうかによってその存在の有無が決定されるものだと考えています。先の小説の中に、作家の心の動きを感じたとすれば、Aー作家にはすでに心が宿っているのです。
(松原仁『Aーに心は宿るのか』インターナショナル新書)

※注

エピソード——小説などで本筋の間にはさむ、本筋とは直接関係のない、短い話。
トラウマ——恐怖・ショック・異常な経験などにより、心に受けた傷。
表象——心で思い描いたシンボル・象徴。

〔問題1〕 [A]の文章を読んで、コンピューターと人間がそれぞれに持つ良い点をあげなさい。

〔問題2〕 [A]の文章に、――「そもそも知能って何だろう？」とありますが、「知能」とはどのような能力だと筆者は考えていますか。かじよう書きで三つあげなさい。

〔問題3〕 「人工知能」とはどのようなものだと筆者は考えていますか。[A]の文章全体をふまえて、五十字程度で答えなさい。

★ここからは、あなたの考えを書く問題です。

〔問題4〕 [B]の文章に、――「先の小説の中に、作家の心の動きを感じたとすれば、A作家にはすでに心が宿っているのです」とありますが、[資料2]の小説を読んで、あなた自身はA作家に心が宿っていると考えますか。宿っていないと考えますか。小説の内容にふれながら理由とともに書きなさい。

〔問題5〕 Aの存在を身近に感じた体験をふまえて、今後人間はAとどのように関わっていくべきだとあなたは考えますか。次の条件を満たすように三百五十字から四百字でまとめなさい。

条件

- 1 Aがどのように活用されているかを具体的に書くこと。その際、[資料1]を参考にしてもかまいません。
- 2 今後人間はAとどのように関わっていくべきかについて、理由や根拠^(こんきよ)をあげてはつきりと書くこと。
- 3 本文を読んであなたが知ったことや考えたことを説明の中に交えて書くこと。
- 4 学校の授業や本などから知った話題や実際に体験したことなどを説明の中に交えて書くこと。

